



安達 幸博議員

介護支援ボランティア導入を

答 十分検討すべき事案



配食サービスをする町民

議員 平成23年度末、高齢化率が40・6%の本町で、安心して暮らせる町にするために、本町の地域支援事業、高齢者福祉事業について伺います。
あわせて安心・安全な生活など多くの効果が期待される介護支援ボランティア制度導入の考えを尋ねます。

町長 地域支援事業として、地域包括支援センターを設置しています。
ほかほか教室では、介護予防を推進しています。高齢者福祉事業は、見守りを兼ねた移動販売車による買物支援、タクシー助成などです。

介護支援ボランティア制度は、高齢者が地域や施設等で行ったボランティア活動に対してポイントを付与して、換金もできる仕組みです。
行政が、制度化するよりも、住民の皆さんが、自ら考え取り組みをしていただくことが大切と考えます。

議員 高齢者がボランティアを通して、地域にでかけ自分自身の生きがいとして介護予防に役立てる視点が大切と考えます。

本町の高齢者福祉計画第5期には、介護予防日常生活支援事業の実施においてボランティアポイント制の活用とあり、今期計画の中に実施について検討とあります。

この計画は変わりないと受け止めてよろしいですか。
町長 将来はそうように考えていますが、今の日野町に不足しているものを分析しながら取り組んでいかなければならないと思います。

議員 この計画書

は、過去の3、4期を踏まえて現状が書いてある。第5章に計画の取組みとして、健康づくりと介護予防の推進とあり、導入したいと受け止められます。

介護支援ボランティア制度導入の課題、問題点は何か尋ねます。

課長 このボランティア制度の対象者は、65歳以上です。今、主にボランティア活動をしてもらえる人は、65歳以下の人が多いようです。

議員 鳥取県福祉保健部が、



施設のイベントに町民が参加

この制度導入マニュアルには、65歳以下も可能とあります。又問題点、課題、留意点、要項案等が記載されています。準備期間の費用は、県補助もあるようです。

介護予防の誘導策として制度を利用しませんか。
町長 ボランティアの励みにもなり、十分検討をすべき事案であると感じました。

米販売に食味計の導入を

答 支援は検討課題



佐々木 求議員

議員 認定農家・農家の努力は、食味値の検査で特筆すべき成果を上げてきています。

ネット販売でそれなりの単価がつけられているものもあるが、業者に販売するため、ブランド化出来ていません。個別販売を支援し、所得を上げていくため食味計を農林公社に配置したらどうか。バーコード入りのシールを発行し、必要なデータが出てくる物を作れば、ブランド化にも役立つと考えます。



日野総合事務所の食味計

総合事務所の機械は持ち出せません。他町や個人の動きも強まる中、生産者の名前や姿が見える形を考え、支援を考える時だと思いますが、どうですか。

町長 日野町産のコメが全国で認められたということは画期的なことで、安全でおいしいコメが実証されました。ブランド化には数量の確保や、ご提案の施策も、販売農家が連携して実施することが最良と考えています。数が少ないというのが一つのネックです。ブランド化は日野町産米というところに行きつきますが、どういう支援がいいのか、いかに高く売れるのか、今後の大きな検討課題です。JAや普及所とも協力し合って底上げを図りたいと考えています。

施設待機者の解消は

議員 11月末に調べた段階で、おしどり荘18名、あやめで3

名といった町内の施設入所待機者がありました。介護保険の運営責任は町長にあります。解決をどう図るのか伺います。保険適用の資格ができたら本来提供するのが責任ということになります。施設は民間で対応していますが、保険事業の主体は町であり、解決は悩ましい問題ですが、見過ごしてはいけなく考えます。

町長 居宅支援サービスこそ本町の支援策の強化部門、安心・安全なまちづくりの強みと感じています。町の場合、責任はそれなりに果たしていると認識しています。経営と



粳すり作業



梅林 智子議員

学校のいじめ対策は

答 職員全員で共有

議員 いじめの発見・対応をどのように行っていますか。
教育長 いじめは人間として決して許されない行為である。被害者の気持ちを率直に受け止め、当事者の希望する形で支援体制をつくり、速やかに状況把握・関係者双方の家庭訪問等行います。区域外就学・出席停止措置については県などと相談し行います。

心理テストを年2回行い毎月教育行政連絡会でいじめ・不登校等の状況把握をしながら問題発見に努めています。事実を職員全員で共有し担任だけに抱え込ませない。嫌な思いをした子に寄り添う子どもがいる事が成果です。

文化ホールエレベータ再開

議員 町文化ホールは年間利用者が18000人にのぼり、ホールと共に歩む会等各種団体の活発な協力に支えられています。全ての町民に利用してもらえよう、車椅子利用者のみならず足腰不安な方の為にもエレベーターの再稼働はできませんか。
町長 町長就任の頃と比べると、文化ホールの利用は格段に多くなってきました。各種団体の支え、職員の頑

張りに敬意を表します。
来年度の当初予算査定の際に、対応について検討したいと思っています。

保健師の職員体制を問う

議員 5人体制の保健師だが現在実質3人です。

1人が県に出向、この8月から一人が産休に入られたが、その後臨時職員の採用はありません。

地域包括支援センターへの法定人員が1.5人で、他1.5人で保健推進業務を行う事態です。職員が安心して産休・育休を取れるよう配慮すべきです。なぜ職員の補充をされないのですか。

町長 保健師を採用しようにも人材が確保できない状況です。

年間スケジュールに沿って協力しながら滞りなく業務をこなしているのです。問題はありません。

議員 この体制で問題ないなら、他の職員は余分だったということですか。

町長 ベテランの職員が2人いるが、退職のことも考えると、他の職種と違って最も確保しにくいので、採用しました。



文化ホール（中央がエレベーター入口）

宮城県南三陸町を視察

行政調査報告

平成24年10月16日～10月18日の3日間、地震・津波の被害状況、災害時の取り組みと復興の現状などの行政視察に、南三陸町を中心に、女川町、石巻市に向きました。

16日、夕刻でしたが、南三陸町の町を、震災語り部さんと同乗いただき、当時の生々しい様子を聞きながら、車中より視察しました。

津波発生時に、テレビで何回も映し出された、南三陸町の防災センタービルに行き、献花をしました。



南三陸町防災センター

ここでは、町職員49名が対策を練っていたとき、津波に襲われ、安全とされていた屋上に非難するも、波にさらわれ47名が命を落としたと説明を受けました。

防災センター以外で勤務していた職員は、避難をして助かったという現実を話され、生死が分れた災害を目の当たりにしました。

防災センター跡を、訪れる観光バスや個人の観光者は、後を絶たず、それぞれが手を合わせ、犠牲になられた人たちの冥福を祈られていました。

献花された花束やお供えの品々、千羽鶴が一杯供えられ、訪れる人の多さを感じ、その悲惨さに目頭が熱くなりました。

南三陸町は、町のすべてを津波にのまれ、がれきは、ほぼ撤去されていました。その残骸は町のあちこちに無造作に積みあげられている状況でした。

海岸に近い部分は、地盤が1メートル程度沈下して、満潮時には道路に海水が、湧きあがり水没し、車が通らない道が多



被災地の状況

数できると言われました。

事実、私たちのバスも海水が増えつつある道を、注意しながら走るところが何箇所もありました。

今では、町も落ち着きを見せていました。語り部さんが、惨状を解説される中で、災害の風化を防ぐためにも、一人でも多くの皆さんに訪れてほしいと、訴えられました。

バスの中からですが、復興に向かって歩んでいる姿が、垣間見られました。

17日、南三陸町役場にて、佐藤議会議長をはじめ、阿部議会議務局長、佐々木危機管理課長から、今回の地震津波の災害状況を、映像を交えて生々しい津波の襲来と、命がらがり避難される住民の動きと声を見聞きし、未曾有の災害で、あまりにもリアルな映像で、発する言葉を失いました。

3月12日に、災害対策会議

を開催し、以後延べ90回に及ぶ会議には、議会からも参加しましたが、「議会は何しているか。」の声が始め、議員は避難所に1人は、最低詰める必要があると感じられたそうです。

行政機関と議会との防災対策上の位置付けとして、防災対策会議に議会も入り、諸問題を共有することが大切だと強く強調されました。

以下いくつかの言葉を拾ってみました。

○「津波でんでんこ」どこにいようが何をしていようが、津波が来たら個々が高いところへ逃げること。命さえ助ければ、いつかは家族が再会できる。

死者の多くは、家族が、家ごと引き返した人が多かった。○非常持ち出し袋に、服用している薬と預金通帳を忘れずに入れる

○衛星電話が使われているが、ビル陰や障害物で問題点が多かった。事前のチェックが必要。

○避難所に行けば、各すべての避難所の避難者がわかる情報共有システムの構築。

○臨時災害FM放送の発信も好評で、50000台のラジオを配った。



高台より見る南三陸町

南三陸町は、	
人口17,815人	
世帯5,365戸	
高齢化率29・3%	
町の財政 歳入86億円	
歳出83億円	
チリ地震時に、5.6の津波の経験から、防潮堤5.6メートル、水門27基、陸門80基、ゲート7基、計114基、高さ15メートルの防災庁舎を備えていました。	
3月11日14時46分、マグニチュード9.2、震度6弱の地震が発生しました。	
15時25分津波襲来。	
防災庁舎付近15・5メートル	
最大遡上高 19・1メートル	
建物被害 3,311戸	
死者 516名	
行方不明者 235名	
計 751名	

○学校・病院・老人福祉施設は安全な高台が良い。
○生活の場合は高台に移転し、生業の場合は、津波被災地に再建を基本計画とする。

石巻市と女川町

石巻市は、海岸線沿いはすべて被災しており、がれきの片付け状況もやや遅れていました。

規制区域で、自宅を補修している状況が見受けられ、町づくりの難しさを感じました。女川町は、ガレキはすべて撤去され、押し波・引き波で

倒壊したビルが残されている

町中を、嵩上げのため3メートルくらい埋め立てる測量も終わり、すぐ埋め立て工事ができる状況でした。

この町は、嵩上げた土地に、生活と生業の場を再建されるようです。

19メートル以上ある高台に、建てられた町立病院の玄関まで津波が来たといわれていますが、周りが山に囲まれ、津波がきても避難する場所が近くにあるので、埋め立て方式の再建だと思っています。

女川町は、原子力発電の町



倒壊したビル（女川町）



原野化した被災住宅周辺

で、大きな町立病院や学校が整備され、体育館やスポーツ広場など素晴らしい施設がありました。避難住宅の整備や町のガレキの片付け状況など、復興の歩みは、進んでいるように感じました。

行政調査を終えて

帰町後、行政調査についての意見交換会を行いました。

中原信 南三陸町、石巻、女川町とも一年がすぎても震災の大きさを感じた。南三陸町では、100年に一度の災害に対応する施策を行う。

避難、逃げることを徹底させる。人命を大切に防災計画にすることが大事です。

梅林 女川町では、ここまで嵩上げするなど復興が目に見える。南三陸町は、方針がきまらず、人口流出が止まらない。働く場所がない。

松本 命の大切さを痛感した。広島原爆と同様の感じを持った。これは現場に行つて見ないと感じることはできないと思う。対策本部と議会が一体となつていなかったのではないか。

防災計画では、議会も関与するしくみにしておく必要がある。

松原 基礎だけが残っている。個人の土地があるという証である。ゆえにどういった復興になるのか。個人の権利を制限してでも復興優先を思つた。

安達 災害のあと被災者との関わりに、議会が積極的になるべきと感じた。

被災直後の生活、復興計画、防災計画に議会が関わる必要があると思う。

竹永 津波など海辺と災害が違ふ日野町に、どう生かすか課題だ。

中原明 議会はどう対応すればよいのか考えさせられた。

だれもが被災者であるこのような時に、議会の機能が動くしくみづくりを考える。

小谷 災害の時、我々は自治会で避難するとしてきたが、津波は「てんでんこ」で命を守る。

議会は、なにをしているか批判があった。ミニFM放送、避難所間の相互連絡のため衛星電話の電波チェックが必要など、印象に残った。

佐々木求 映像をみて言葉がなかった。それぞれの災害に特徴がある。

佐々木秀 災害の大きさ、想定の違いを見てみたかった。

常に想定以上のものを考えなければならぬ。

人材、物をゼロにしてはいけないのがよくわかった。復興するにも人材（役場職員の死により）がなくては困る。

人材、データなども防災計画に盛り込む必要を感じた。

わが町では、ありえない津波被害。「津波でんでんこ」のように個々で避難することが、家族すべての命を守ることにつながります。

この度の行政調査の中に、防災計画策定の多くのヒントがありました。

防災や減災に結び付けて、行こうと思います。

総務経済 常任委員会 報 告

商工会と意見交換会

地場産業育成、雇用の促進、地域の各種イベントへの積極的参加支援等、町の賑わいに貢献されてきた商工会も、少子高齢化による人口減とスーパー、ホームセンター等の進出により、取り巻く環境は一段と厳しさを増す状況と推測されますので、日野町商工会勝瀬会長、中西・佐々木副会



日野町商工会館

長、西村事務局長から現状や行政への要望等を聴く会を、11月21日に開催しました。

商工会の現状

説明では、日野町内における商工会会員の健全な発展を図り、商工業の発展に寄与することを目的に活動しています。

経営改善普及事業と地域総合振興事業を柱に会員139名の組織です。

地域振興事業

「たたらの里奥日野ツアー」「たたらの築校維持管理」等、全国展開フォロアアップとお盆の灯ろう祭、新年賀詞交換会等の実施と伯耆国たたら顕彰会への支援、地域イベント参加協力等で、町内の賑わいと、地域の活性化に繋がればと活動しています。

課題

小規模経営者の指導・相談等を実施、商工業者の減少、個人消費の低迷、製品・請負単価の低下等により厳しい状況です。厳しい財政状況の中で、経費の削減、自主財源確保に努めているが、財政運営は、毎年基金積立金を取り崩して運営している状態で、3年後には基金が枯渇する心配があり、経営的には行き詰ると予測される。

このような現状から、行政からの助成金の増額の要望がありました。

12月11日、委員会を開き検証を重ね、次のような総括をしました。

商工会の果たす役割は、営利目的ではなく、地場産業育成、雇用の促進、地域経済の活性化等で、役割の重要性は理解できます。

財政状況も、少子高齢化、個人消費の低迷、商工業者の減少の現状から厳しさが、加速されるであろう。

合併についても、あり方を検討され方向性を明確にされたいなど、さらに調査を重ねる必要があるので、再度意見交換会を開くことにしました。

新庄村議会との交流会



日野町と新庄村の交流会

12月6日、岡山県新庄村役場で、新庄村議会との交流会を行いました。

ともに平成の合併をせず、単独自立の道を歩んでいる自治体であること、四十曲峠を境として隣接した町村であることなど、共通した課題などを話し合い、今後の議会活動に生かそうと、実現の運びとなりました。

お互い、少子高齢化やヒメノ餅、スズハラ餅を特産品として売り出していることなど、共通の取り組みや課題を話し

合いました。

教育、医療・介護、観光などの意見交換も行いました。

出雲街道をテーマに、観光で連携など、将来につなげようという話が盛り上がりました。

以前には、運動会を含めた両町村の交流が行われていた経緯もあり、今回の交流復活を機に、次回は日野町で行うという約束をし、内容のある交流会になりました。

教育民生 常任委員会 報 告

教育委員会との意見交換会

日野町立学校給食センターの業務一部委託について、1月4日、教育委員会と意見交換会を開催しました。

給食の安心・安全が 担保できるか

昨年の12月、町執行部から給食センターの調理員の確保が困難になり、給食の継続が難しくなったので、一部民間委託したい旨の話がありました。

この問題は、2、3年前から起きていた重要案件であると言われるが、議会に12月に説明、1月に委託業者募集の話は、拙速すぎるのではないかと、経過等について説明を求めました。

一番大切なこととして、給食の安心・安全が担保できるかについて、山本教育長、山形課長に以下の項目を尋ねました。

○調理職員の補充ができなかったその原因と確保の努力は。
○待遇を含めた本町の勤務条件は。
○給食センターが関係する所（PTA、学校、給食資材搬入業者、学校給食会等）との説明と話し合いの時期

とその状況。また、現在の嘱託職員への説明は。
○民間委託への試算。
○教育委員会での説明資料、及び保護者説明会の資料、出た意見。
○民間委託と現体制のメリット、デメリット。
○委託業者のチェック体制をどうするのか。
○業者選定の基準は。
○選定委員はだれが行うのか。
○委託と労働派遣の違いを明確化しているか。



給食を食べる児童（黒坂小）

県町村議会議員研修会

11月27日、鳥取県町村議会議員研修会が、北栄町「大栄生活改善センター」で開催されました。

今年度は、午前・午後それぞれ中央講師による講演会が企画され、県下の議員が一堂に会して学習を深めました。

寄生虫が健康保険を救う

議員各位の健康管理に、「免疫力を高めることにより病

疫力を高めることにより病氣から回避」と題して、人間総合大学 藤田紘一郎教授が絶妙なユーモアと、考えられないような逆の発想で、健康を取り戻されるというお話しました。

具体的には、現代病といわれているアトピー、花粉症等は人の体より寄生虫を排除した時期（1960）より発生が始まったといわれる。という根拠に基づいて、カイチュウ、ギョウチュウ、サナダムシの出す抗体が、それらの病氣に対する免疫力を持ち合わせており、この免疫力を高めれば、病氣にかかりにくくなり、体力勝負の議員活動が元気に続けられるというお話でありました。

再び寄生虫を体の中に飼うことにより、病氣にかかりにくい体ができるという、きれいな社会の落とし穴を学習しました。

解散攻防と総選挙分析

11月末と言えば解散風が吹く中で、「解散後の政界地図はどのように変わるのか」政治ジャーナリストの泉宏氏を講師に解説と分析が話されました。

泉氏は、首相官邸記者クラブで政界の動きを見つめてこられた経験と実績に基づいたお話で、永田町界限の政治家集団の、解散、総選挙、その後の勢力分析に言及されました。



特集 行動

がんばっている人・団体を、3回シリーズで紹介します。

3回目

「蘇れ鏡山城よ我が町よ」

当会は、黒坂地区に現存する史跡の保護と正しい歴史を知ることにより、地域の活性化を図ることを目的として5年前に発足しました。

活動内容は、鏡山城址の草刈り、竹木の伐採、観光客の

ガイド、案内板及び歴史書・リーフレットの作製、城址のライトアップ(毎年8月15日)、歴史講演会の開催等多岐にわたっています。

竹木等で鬱蒼とし、荒れ果てた城址を会員がこつこつと清掃を続け、隠れていた石垣が忽然と現れました。近年、城址の整備に伴い、鳥取県文



東屋竣工式準備風景

化財課等の調査も進みつつあります。2年前

には陣屋跡地後方の山腹に千本余りの山桜を植樹しまし

た。数年後には花見ができるものと楽しみにしています。

昨年は、当会発足5周年記念として、黒坂駅前で「奥日野源流太

鼓」の演奏を開催。城址と幟がライトに浮かび、かがり火が太鼓演奏を引き立て、幻想的な雰囲気に来場者から思わず感嘆の声が上がりました。

10月には竣工になった東屋「亀山亭」のお披露目を開催。多数の来賓をお招きして、奉納演武、野点のサービスを実施しました。

城下を眺めながらの一服は格別だったと好評でした。

また、昨年は、今までの実績が認められ、鳥取県知事及び新日本海新聞社より表彰し



東屋亀山亭で野立

ていただきました。

今後とも肅々と諸事業を継続したいと考えています。

当初12名の会員も、今では40名余りで当会の活動に汗を流しています。

黒坂鏡山城下を知ろう会
事務局長 西古尚史・記

あとがき

この冬、積雪は少ないが、寒い日々が続いています。インフルエンザも流行っています。風邪には十分に気を付けられますことを願うところです。

昨年末に安倍内閣が誕生しました。「アベノミクス」による、金融緩和、財政出動、成長戦略で、デフレ不況克服を掲げています。

景気が上向き、今年こそは良い年になりますように願います。

東日本大震災の被災地は、復興が遅々として進まない現状に心が痛みます。一日も早く復興出来そうですよう念じてやみません。

議会では、出かける議会に向けた広聴活動に取り組み、情報の公開を進め、開かれた議会をめざします。

最後になりましたが、みなさまのご意見、ご提案をお待ちしています。

松原直人

議会広報調査特別委員会

委員長 小谷 博徳
副委員長 安達 幸博

佐々木 求
松原 直人
松本 利秋